

内分泌・代謝内科

【当科の特徴】

- 1) 当院は現在広島県内に 19 施設ある日本糖尿病学会認定教育施設のひとつであり、また広島県内に 3 施設ある日本内分泌学会認定教育施設のひとつでもある。
- 2) 当院の診療科数は 31 科を数え、地域支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院に指定されている。そのため多くの糖尿病患者が多数の診療科で入院している。当院では、糖尿病治療以外の目的で他科に糖尿病患者が入院しても、入院中の血糖管理は当科が行っている。
- 3) 糖尿病については、血管コントロール入院を中心に、インスリンを用いた血管調整を行うとともに合併症への評価を行い、病態に応じた血糖調整、投薬等を行っている。また、絶食管理、合併症治療、手術侵襲、ステロイド等薬剤による高血糖など、様々な状況に応じた血糖管理を実践する機会に恵まれている。
- 4) 内分泌疾患としては、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎皮質・髄質疾患など様々な疾患を対象に精査・加療を行っている。

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

広島赤十字・原爆病院

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる。
- 4) 主要な症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる。
- 5) 当科の領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる。
- 6) 当科の領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 7) 収集した情報を基に、POMR＜問題志向型診療記録＞を作成できる。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
- 9) 診療に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
- 10) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
 - 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
 - 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
 - 4) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。
 - 5) 実習初日の集合時間及び集合場所は、実習前週に「もみじの掲示版」で広島大学学生支援グループから通知するため、確認すること。
- 以後の集合時間及び集合場所については、各診療科指導医の指示を仰ぐこと。

広島赤十字・原爆病院

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行う。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、主治医団の1人として入院から退院までの医療に参加すること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。また、実習終了時までにサマリーを作成すること。
- 4) 第2週月曜日のカンファレンスの際には、患者の概要と現在の治療の進行状態を簡潔に指導医に提示すること。その際には既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。
- 5) 2日目以降は朝9時までに来院し、指導医に毎朝9時頃来院したことを連絡すること。
- 6) 2週間の間は糖尿病症例1例、内分泌症例1例の2例のレポートを作成する。最終日にレポートを用いて試問がある。

【当科の週間スケジュール】

	行事、等	担当	場所
月	オリエンテーション (第1週) 外来研修・病棟研修	部長 指導医	内科外来 中央棟7階 医局会議室
火	病棟研修	指導医	中央棟7階
水	病棟研修 病棟カンファレンス 甲状腺エコー 部長レクチャー	部長 指導医	中央棟7階 検査科エコー室
木	病棟研修 糖尿病教室	部長、指導医	中央棟7階

広島赤十字・原爆病院

金	病棟研修 アイソトープ治療見学 研修医ミニレクチャー 試問（最終週）	部長 指導医	中央棟 7 階
---	---	-----------	---------

その他、ホルモン負荷試験・救患対応などがある。学生用携帯はとれるようにしておくこと。

【評価】

学生の評価は以下を行う。

評 価 項 目	配 点
指導医による学生の行動内容の評価	30 点
回診での患者提示の的確さ	10 点
カンファレンスでのプレゼンテーション	10 点
学生用カルテの内容	10 点
ポートフォリオの内容	20 点
部長試問	20 点

【実習指導医】

亀井望（部長、日本内科学会認定医・総合内科専門医・研修指導医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医・指導医

宮原弥恵（副部長、日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医、日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・認定指導医）、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医・指導医

稲垣早織（日本内科学会認定医）

吉田里穂

【参考図書】

- 1) 糖尿病専門医研修ガイドブック 日本糖尿病学会編・著 改定第7版 診断と治療社
- 2) 内分泌代謝専門医ガイドブック 成瀬光栄ら編 改定第4版 診断と治療社
- 3) 甲状腺疾患診療パーフェクトガイド 浜田昇編・著 改定第3版 診断と治療社
- 4) エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2018 日本腎臓病学会編 東京医学社

広島赤十字・原爆病院

- 5) 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017 年版 日本動脈硬化学会編 杏林社
- 6) 高血圧治療ガイドライン 2019 日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会編 ライフサイエンス出版
- 7) 脳卒中治療ガイドライン 2017 日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会編 協和企画